

目加田誠旧蔵一九三四年大学講義プリント：（二） 陸宗達篇

王，昊聰
九州大学大学院人文科学府：博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/4363582>

出版情報：中国文学論集. 49, pp.133-145, 2020-12-25. The Chinese Literature Association, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

目加田誠旧蔵一九三四年大学講義プリント

——(二) 陸宗達篇

王 昊 聰

陸宗達(一九〇五〜八八)は、字穎民(又は穎明)、浙江省慈溪の人、一九二六年より黄侃(一八八六〜一九三五)に師事し、さらに章太炎(一八六九〜一九三六)からも指導を受けた。章黄学派の代表的な文字・訓詁学者である。一九二八年に北京大学国文系を卒業し、北京大学国文系予科の教員となった。一九三一〜三七年、輔仁大学や中国大学等複数の大学講師或は教授を兼ねた。一九四七年より北京師範大学教授をつとめた。

目加田誠は、一九三四年秋、中国大学で陸宗達の講義「音韻原理及其沿革」を傍聴し、五十二枚の講義プリントを日本に持ち帰った。講義プリントのほか自筆メモ三枚が現存する。

講義プリントは、十三節に分かれている。第一節「音之変遷」は古音が時代や地域によって変遷することを、第二節「求古音資料」は古代のさまざまな典籍中の古音資料を、第三節「求古音方式及其系統」は唐以後を中心に音韻学者とその源流を、第四節「声韻条例古今同異」は古音と今音の異同例を説明する。第五節「声之通転」は、古音の五声(子音||唇・牙・齒・喉・舌)間に現れた通転(||声或は韻の転化)現象について、第六節「古本声十九類」は通転論理を用いて『広韻』四十一声類と上古音(古本声十九類)の関係を説明する。第七節「韻之通転」は『広韻』二百六韻間の通転関係を、第八節「古二声」は前節に基づき上古の声調が平声と入声の二種であったことを説明する。第九節「古本韻二十八部及其对転旁転」は上古の母音(古本韻二十八部)間に現れた通転現象を、第十節「二百六韻之離合分隸二十八部」は『広韻』二百六韻と古本韻二十八部との対応関係を説明する。第十一節「二十八部与諸家古韻部居次第標目对照」は黄侃の説と先学の説とを対比する。第十二節「古本音読法」は上古音の読

み方を総括する。第十三節「説文最初声母分列古本韻二十八部」は声を縦軸、韻を横軸に表としたもので、『説文』の最初の諧声符を書き込み十八頁に及ぶ²⁾。黄侃は、古本声十九部と古本韻二十八部を提起したが、諧声表は未作成であった。従って、本表は章黄学派の学説を代表する極めて重要な資料と言える。

実はこの講義プリントは陸宗達が編纂したのではなく、黄侃門下の先輩劉頤が著した『声韻学表解』（商務印書館、一九三四年二月）の下篇である。劉頤（一八九一〜一九七八）は、字は博平、湖北省広濟県の人。一九一七年に北京大学を卒業し、一九二九年、黄侃の推薦により武漢大学の教員となった。本書は、武漢大学着任後数年間の講義草稿をもとに初学者向けに執筆出版された。上下篇に分かれ、上篇「今音之属」は現代中国語の知識を紹介し、下篇「古音之属」は古代音韻学を論ずる。大量の表と系図で複雑な音韻構造をわかりやすく説明している。本書は、当時最新の音韻学研究書であり、黄侃と章太炎からも高く評価された⁴⁾。黄侃の説に基づいた本書は、章黄学派の代表的な著作として重要視され、その後の研究にも大きな影響を与えた。

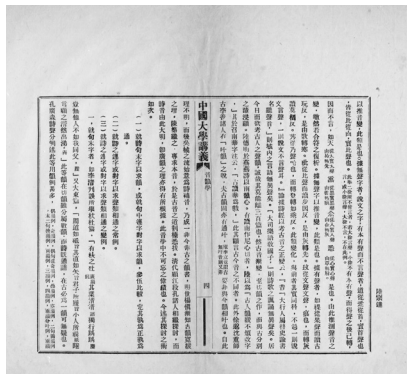
講義プリントと原書には多少の違いがある。版心題は「声韻学」から「音韻学」と改められたが、本文はそのまま転用する。陸宗達は同門の最新の研究書を講義材料として紹介したのである。その篤い友誼が窺われる。

注

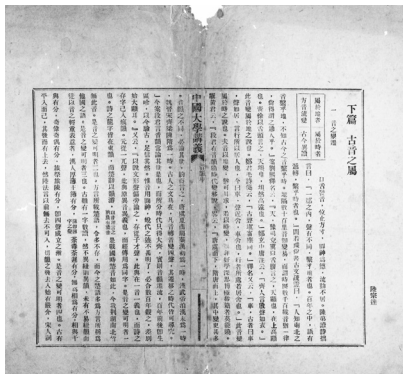
- (1) 九州大学中国文学研究室『目加田誠「北平日記」(中国書店、二〇一九年)「一九三四年十月五日」条、および目加田誠「大学」(『随想 秋から冬へ』、龍溪書舎、一九七九年)を参照。
- (2) 陸宗達講義プリントは、前八部(屑部から寒桓部まで)のみを収める。
- (3) 劉頤「声韻学表解叙」、(『声韻学表解』、商務印書館、一九三四年)に、「年来教於上庠、恒据其説以爲講習之資。諸生聞之、靡不歡悟、茲復引申排比、參合衆家之論、立爲表解。」とある。
- (4) 章太炎「声韻学表解題辭」(劉頤「声韻学表解」、商務印書館、一九三四年)に、「生好学、言古今韻。是書則以教授学子者、曲有条理、最便初学。」とある。また、原書の題簽は黄侃が揮毫した。

【付録】講義プリント全書影
(2) 陸宗達「音韻学」

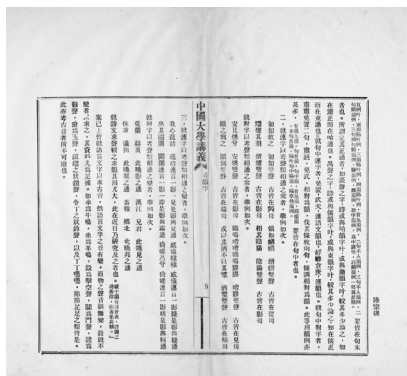
目加田誠旧蔵一九三四年大学講義プリント (二) 陸宗達篇



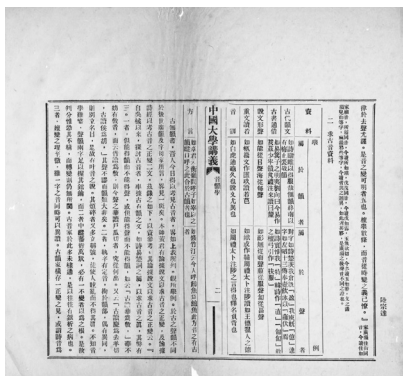
4



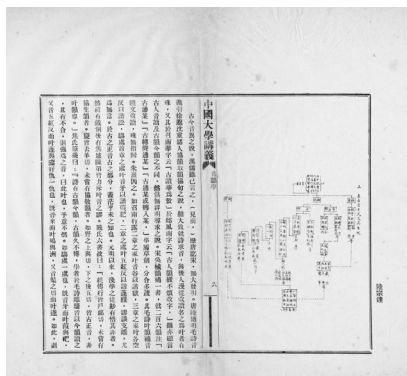
1



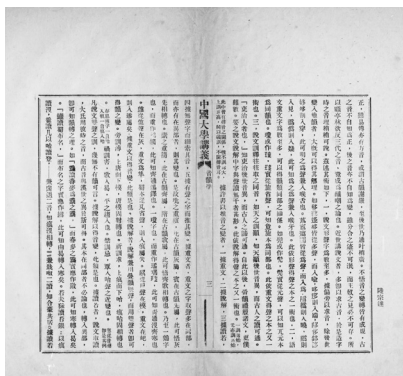
5



2



6



3

目加田誠旧蔵一九三四年大学講義プリント (二) 陸宗達篇

中國大學講義 目錄

發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

16

中國大學講義

發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

13

中國大學講義 目錄

發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

17

中國大學講義

發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

14

中國大學講義 目錄

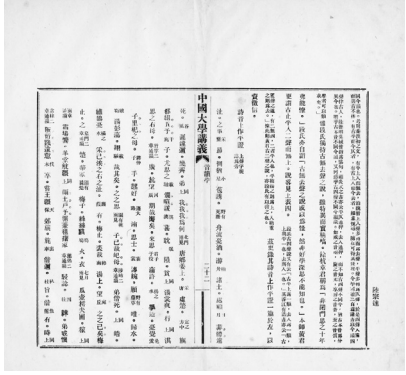
發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

18

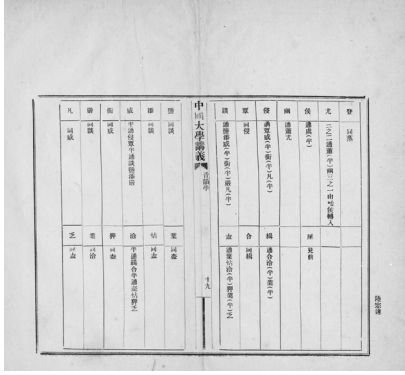
中國大學講義

發	目次	陸宗達
一	論中國文字之功用	陸宗達
二	論中國文字之性質	陸宗達
三	論中國文字之種類	陸宗達
四	論中國文字之地位	陸宗達
五	論中國文字之未來	陸宗達
六	論中國文字之現在	陸宗達
七	論中國文字之過去	陸宗達
八	論中國文字之將來	陸宗達
九	論中國文字之現在與將來	陸宗達
十	論中國文字之現在與將來	陸宗達

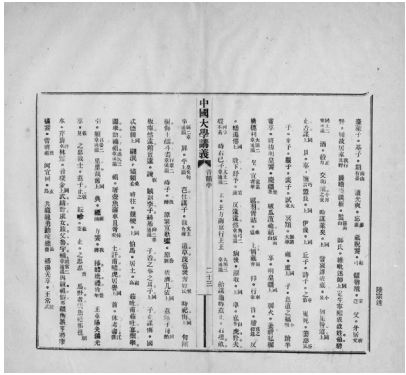
15



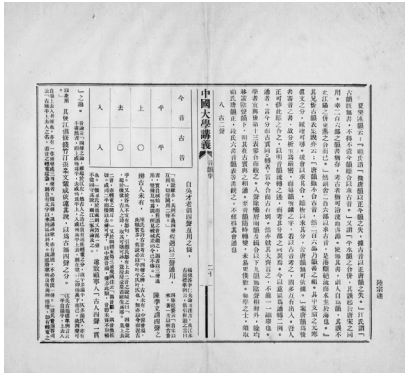
22



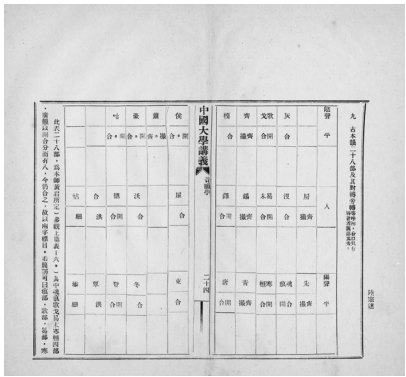
19



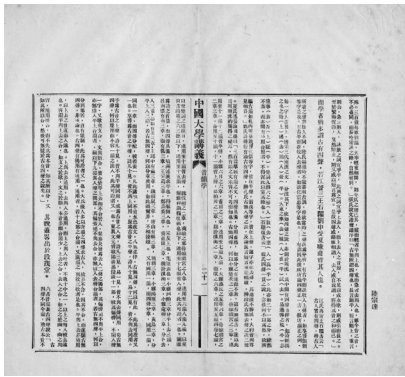
23



20



24



21

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
...

28

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
...

29

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
...

30

中國大學講義
音韻學
第六十三頁

...

25

中國大學講義
音韻學
第六十四頁

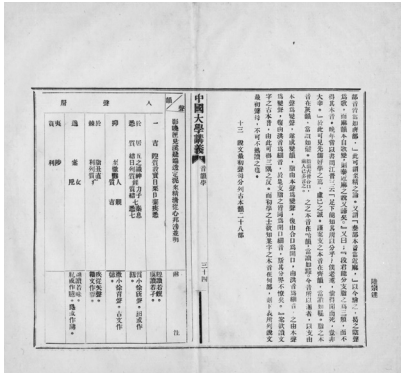
...

26

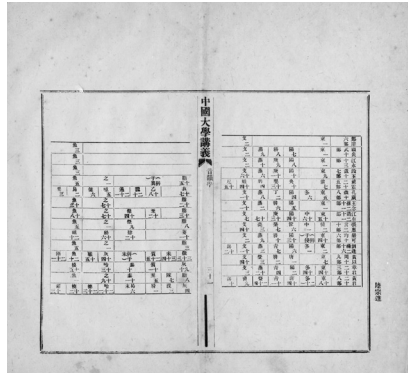
中國大學講義
音韻學
第六十五頁

...

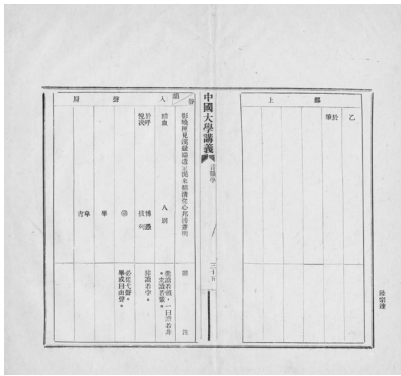
27



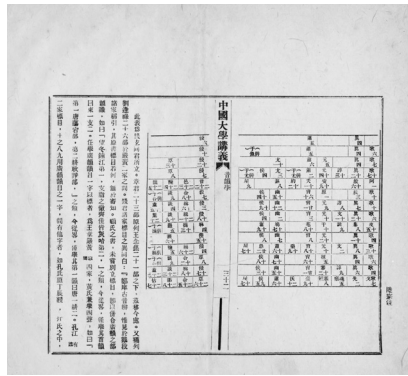
34



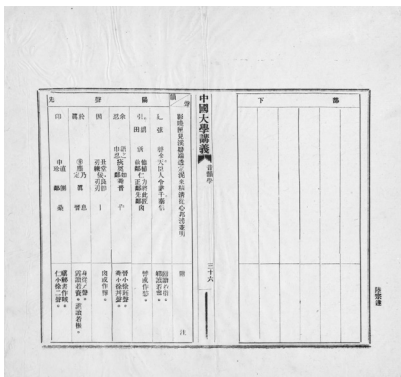
31



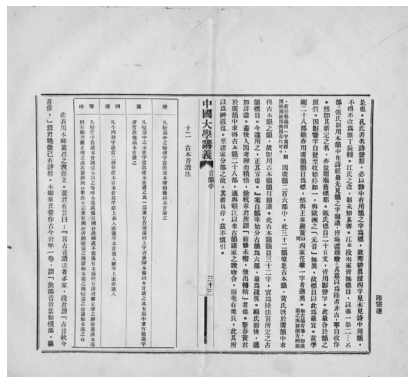
35



32



36



33

部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

中國大學講義 音韻學 陸宗達

40

部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

中國大學講義 音韻學 陸宗達

37

部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

中國大學講義 音韻學 陸宗達

41

部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

中國大學講義 音韻學 陸宗達

38

部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

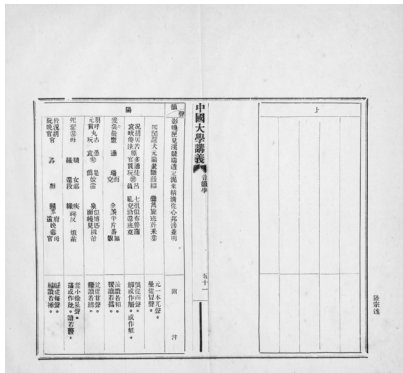
中國大學講義 音韻學 陸宗達

42

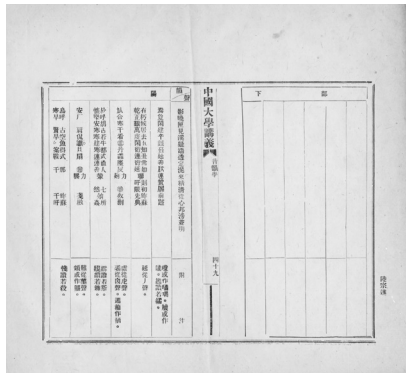
部		部		部		部		部	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
...

中國大學講義 音韻學 陸宗達

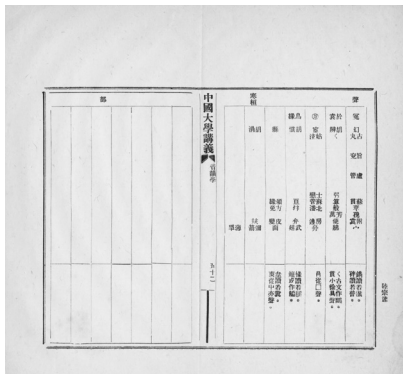
39



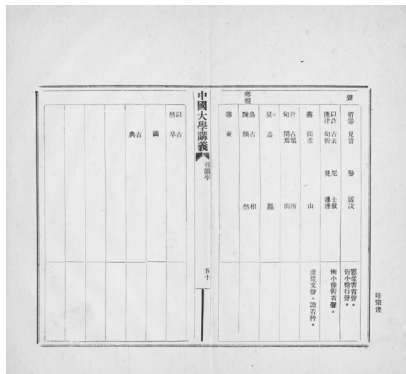
51



49



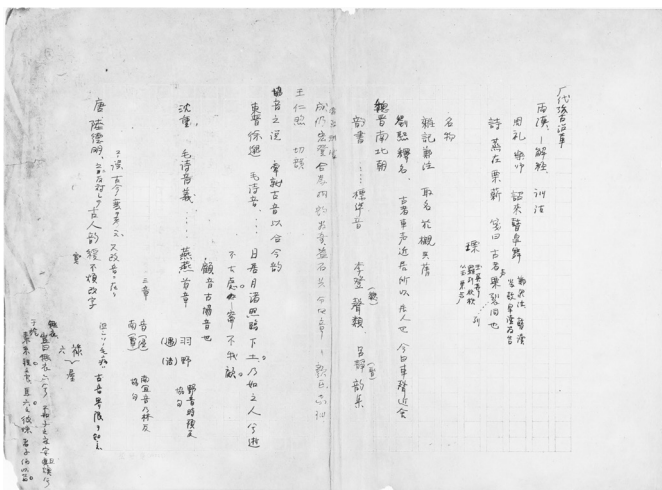
52



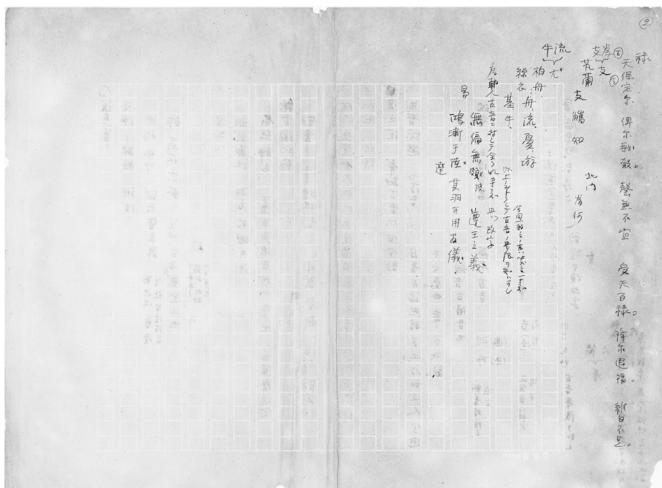
50

付：目加田誠博士自筆メモ用箋

中国文学論集 第四十九号



1



2

目加田誠旧蔵一九三四年大学講義プリント
 (二) 陸宗達篇

